

左官の伝統技法「三和土（たたき）」で、日本庭園の園路をきれいにリニューアル。その作業現場が10日、公開された＝写真。本来は土間など室内に用いられてきた技法だが、屋外でも使えることが証明された形だ。また、掘削土の再利用や再生砕石を使用することで、環境にもやさしい工法として、今後注目を集めそうだ。

場所は関西学院大学の西宮上ヶ原キャンパス内にある日本庭園。幅2mの園路はこれまでの補修でモルタルを塗り重ね、見た目も悪くなっていた。

12月1日に着工し、既存園路を表面から20cmほど削り、その後、砂利の上に、真砂土など各種材料を均一に配合したものを敷き詰め、仕上げる。

学生の授業中には機械音を出すことができないなど限られた条件での施工とな



ったが、予定通りの進捗で、今週末にも完成するという。

この取り組みは、国土交通省の「建設業と地域の元気回復事業」の一環で、大阪府建団連（北浦年一会長）が大阪府とNGO環境パートナーシップ協会の参画を得て実施。三和土を基にした土系舗装の事業化を目指し、試験施工結果を踏まえ、オープン施工した。

北浦会長は「需要が少なく

大阪府建団連など

左官の伝統技法 「三和土」で園路 をリニューアル

なってきた伝統技法の新たな使い方が確認できた。埋もれかけた技術でも、時代にあった使い方を見つけてやれば、職人の雇用の安定や職域の拡大につながる」と期待を寄せた。

H22.12.14

建団新聞

大阪府建団連の「三和土」土系舗装



均一にならしている状況(たなき)



「三和土」土系舗装の施工現場

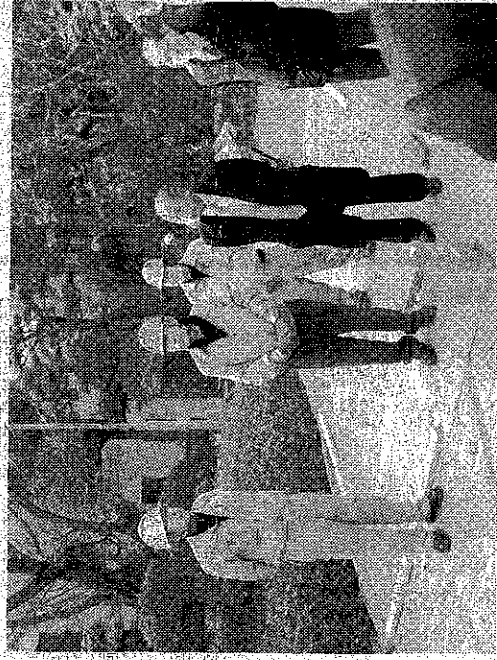
大阪府建団連は大阪府、NGO環境パートナーシップ協会の参画を得て「職人の雇用の安定を図る建設技能士職域拡大協議会」を結成。産業廃棄物、余剰原材料を活用した環境適応化事業への進出可能性の検討

大阪府建団連は大阪府、NGO環境パートナーシップ協会の参画を得て「職人の雇用の安定を図る建設技能士職域拡大協議会」を結成。産業廃棄物、余剰原材料を活用した環境適応化事業への進出可能性の検討

大阪府建団連は大阪府、NGO環境パートナーシップ協会の参画を得て「職人の雇用の安定を図る建設技能士職域拡大協議会」を結成。産業廃棄物、余剰原材料を活用した環境適応化事業への進出可能性の検討

日本庭園の風合い生かす

職人の伝統技能で品質を均一化



視察する大阪府建団連の幹部

「三和土」とは、叩きめ、機械によつて上から土に石灰や水を混ぜて練つたものを塗り、叩き固めて仕上げるもの。三種の土を使い、環境に配慮した材料を混ぜ合わせる。叩きまは花崗岩などが風化して出来た土で、その土に石灰や土を練る硬化する性質があるという。同大学の日本庭園の舗装は、もともと「たなき」で造られ、その修復にはセメントを使っていた。今回の「オープン

職人の雇用に つながるよう

阿食重一郎：大阪府建団連副会長の話
「オープン」実施は、大学の構内で人目に付きやすい場所を選んだ。授業中の施工は避けるなど、限られた時間で制約もあったが、大学の協力を得て実施できた。多くの人に見ていただき、この工法の宣伝効果もあったと思う。土は出来るだけ場外に出さないよう環境面にも考慮し、均一に品質を確保した。今後、この結果も分析し、道路舗装だけでなく他の分野でも商品化できれば……。それによつて職人の雇用がもっと生まれるよう努力したい。

関西学院大で「オープン」実施施工

大阪府建団連(北浦年一会長)は、昨年、国土交通省が創設した建設業と地域の二気回復事業で、産業廃棄物などを土系舗装に活用する「オープン」実施施工を関西学院大学の協力を得て、十二月一日から同大学内の日本庭園(西宮市上ケ原一番地「一五五」)で実施してきた施工状況を十日、報道関係者に公開した。同施工では左宮の伝統技能「三和土」(たなき)工法を駆使して品質の均一化を図り、日本庭園に合致した風合いのある舗装に仕上げている。大阪府建団連は今回の施工で、一定の効果は裏付されたとして、今後はメンテナンスなどについて検討、同商品を幅広く売り込みたい方針だ。

実施施工では、まず、二〇センチ厚のセメントを撤却。一層に現地の土を使って固めた。二層には建設で使われ、ているコンクリートを砕いた再生ハイス(砕石)、セメント、現地の土を使って締め固めた。この現地の土を使うことに対し「自然に馴染むこと」に苦勞した(阿食重一郎、副会長)という。三層は、真土と石灰で骨幹部を固め、機械によつて上から一層者が決まり、各地で新たな試みを実施している。事業期間は採石された時期から来年三月十日までとなっている。大阪府建団連としては、検討会として継続させ、今後、検証を行い、メンテナンスなどについて検討していく方針。

実施施工では、まず、二〇センチ厚のセメントを撤却。一層に現地の土を使って固めた。二層には建設で使われ、ているコンクリートを砕いた再生ハイス(砕石)、セメント、現地の土を使って締め固めた。この現地の土を使うことに対し「自然に馴染むこと」に苦勞した(阿食重一郎、副会長)という。三層は、真土と石灰で骨幹部を固め、機械によつて上から一層者が決まり、各地で新たな試みを実施している。事業期間は採石された時期から来年三月十日までとなっている。大阪府建団連としては、検討会として継続させ、今後、検証を行い、メンテナンスなどについて検討していく方針。